



【上】世界各地を飛び回り、柔道の普及を進めている山下さん。「相手と組んだ時、国境を超えて心と心がつながるような気がします」

【下】2007年12月から9カ月間、日本で研修を受けた南アフリカのジャック・ヴァン・ザイル選手（左）は、ロンドンオリンピック男子柔道73kg級で出場予定だ

PROFILE

YAMASHITA Yasuhiro

1957年熊本県出身。84年ロサンゼルスオリンピック男子柔道無差別級で金メダルを獲得し、国民栄誉賞を受賞。現役引退後は全日本柔道男子などの指導者として活躍。2003年国際柔道連盟理事に就任。現在は東海大学理事・副学長・体育学部長を務める。「認定NPO法人柔道教育ソリダリティー」を立ち上げ、柔道を通じた国際協力にも取り組む。

☆認定NPO法人柔道教育ソリダリティーの活動はこちら→www.npo-jks.jp/

山下泰裕

「柔の道は人づくり」

現役時代、その圧倒的な強さから「史上最強の柔道家」と称された山下泰裕さん。ロサンゼルスオリンピックでは全試合一本勝ちで金メダルを獲得。その強さを世界中に知らしめた。引退後は指導者として国内外で後進の育成に従事し、柔道の普及に努めてきた彼が追求するのは「自他共栄」の精神。スポーツだからこそ実現できることとは――。

今から28年前、ロサンゼルスオリンピックに出場した時、2回戦で右足をけがしてしまいました。柔道一筋で突き進んできた人生。表彰台の頂点を目指してきた努力、周りの人の応援を無駄にしてなるものかと、あらゆる「技」を駆使して決勝まで進むことができました。金メダルを手にした時はまさに感無量。その気持ちは、とても言葉では表現できません。

このNPOの活動を通じて、アフガニスタン、ロシア、イスラエル、パレスチナ、中国など、さまざまな国の選手、指導者とかかわってきました。現地に行くこともあれば、彼らを日本で受け入れて研修をするものもあります。柔道は日本発祥のスポーツですが、国によってスタイルが違う。私たちも勉強になることばかりです。そしてスポーツをしている時は、みんな生き生きとしている。勝った時の笑顔、負けた時の悔しい顔…、自身と真つすぐ向き合える空間がそこにはあると感じます。こうした一つ一つの出会いが、つながって、彼らが日本との「懸け橋」となってくれば、こんなにうれしいことはありません。

柔道では対戦相手は敵ではありません。相手がいるからこそ、自分を磨き高めることができる。練習であれ試合であれ、そこには常に、相手に対する尊敬がなければなりません。その気持ちを表現するのが、試合前後の「礼」。それはまさに、私たちが誇るべき「日本人らしさ」が出ている部分でもあります。引退後は柔道の普及のため、国内外で後進の指導に当たっています。柔道というスポーツを通じて、日本について知ってもらうことも私の役割。国際柔道連盟の理事に就任してから世界のさまざまな状況を知り、貧しさ故に可能性を生かされていらない人たちが、他の選手と平等に畳の上で立てるような環境づくりをしたいと思うようになりました。そうして2006年に立ち上げたのが「柔道教育ソリダリティー」。私が代表理事を務めています。柔道界や大学関係者を巻き込みながら、開発途上国

の指導者、選手の人材育成、柔道着や畳の寄付などに取り組んでいます。このNPOの活動を通じて、アフガニスタン、ロシア、イスラエル、パレスチナ、中国など、さまざまな国の選手、指導者とかかわってきました。現地に行くこともあれば、彼らを日本で受け入れて研修をするものもあります。柔道は日本発祥のスポーツですが、国によってスタイルが違う。私たちも勉強になることばかりです。そしてスポーツをしている時は、みんな生き生きとしている。勝った時の笑顔、負けた時の悔しい顔…、自身と真つすぐ向き合える空間がそこにはあると感じます。こうした一つ一つの出会いが、つながって、彼らが日本との「懸け橋」となってくれば、こんなにうれしいことはありません。



特別
インタビュー